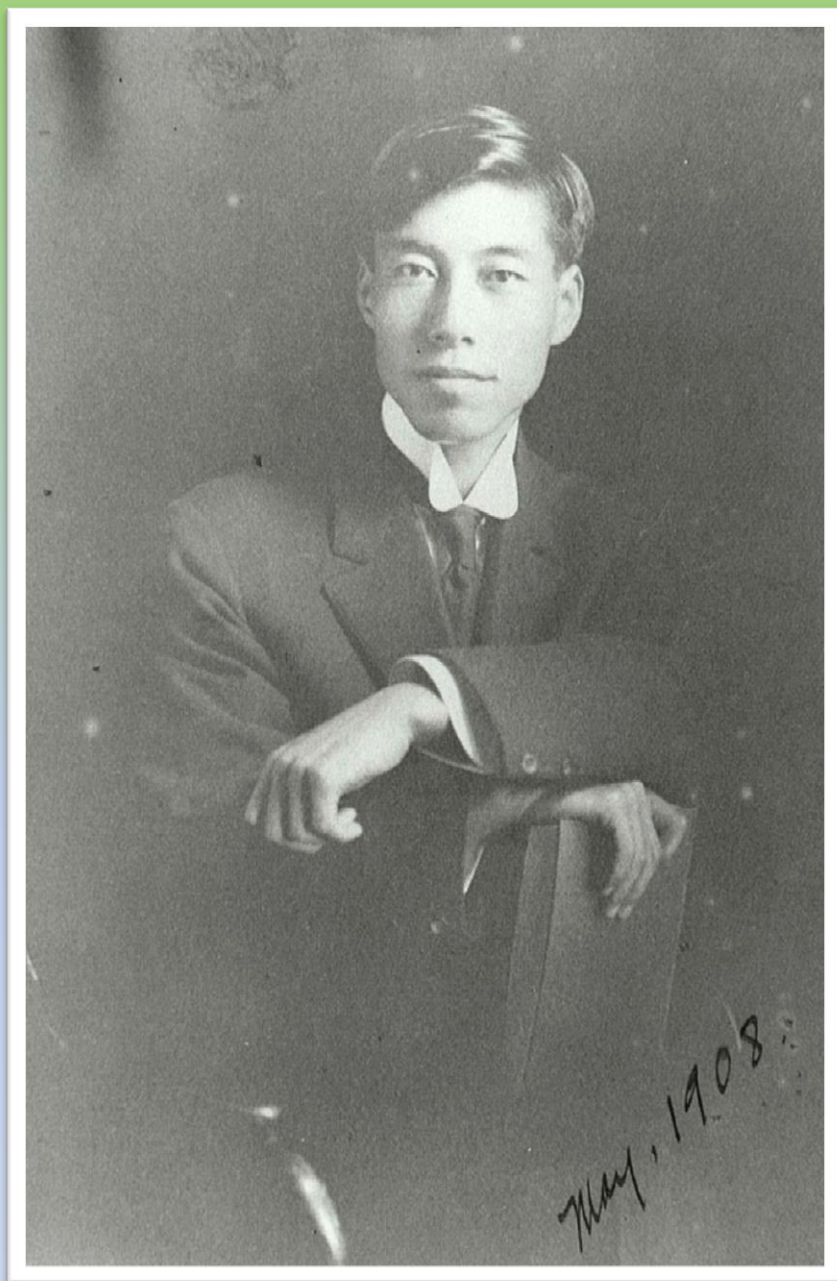


パネル展

平成 30 年 5 月 29 日 (火)
~ 8 月 26 日 (日)



1908 年 パナマ運河建設工事時代の青山士

土木技師 青山士の軌跡をたどる

青山士は、旧岩淵水門を設計するなど、荒川放水路工事の指揮をとった土木技師です。

日本人で唯一パナマ運河工事に従事し、その経験を活かして国のため、人のために大工事に携わってきました。

荒川知水資料館では開館20周年企画第二弾として、パナマ運河工事から荒川放水路工事、そして信濃川改修工事(大河津分水路可動堰)に至るまで、青山士の軌跡を紹介します。

荒川知水資料館 2階企画展示スペース他

[開館時間] 9:30-17:00(5月-6月) ※7月以降開館時間が変更になります。

[休館日] 毎週月曜日(祝日は除く)、祝日の翌日、年末年始、お盆



「真に偉い人とは、このような人を言うのであり青山士は一介の技師ではなかった。当時にまた、いわゆる世のクリスチャンとは異なってその信仰は地についていた。信仰について一片の文章も書かず、一度の説教も試みたことはなかった。ただ黙々と、己が命ぜられた地の仕事に打ち込んだといつてよい。彼はその字の示す如く実に士(さむらい)らしいキリスト者であった」

南原 繁(元東京帝国大学総長)青山士追悼式での弔辞の言葉

パナマ運河・ガトゥン閘門(1913年頃)

1903年7月東京帝大土木工学科を卒業後、渡米し1904年からパナマ運河工事に参加した。

最初は、末端測量員として、最終的には勤勉な態度が認められガトゥン閘門の重要部門を設計、ガトゥン工区の副技師長となった。



旧岩淵水門完成(1924年)

当時はまだ珍しかった鉄筋コンクリート、地下20mまで打ち込まれた基礎杭など、パナマ運河で学んだ技術を活かし、旧岩淵水門の設計をするなど、荒川放水路工事の指揮をとった。荒川放水路完成後も青山士はたびたびこの地を訪れている。

信濃川補修工事(大河津分水路可動堰)完成(1931年)

信濃川大河津分水路は1927年にほぼ完成していた。しかし、同年6月24日、放水路の頭にあたる自在堰の転倒事故が発生。その修復を含めた大河津分水路可動堰等の竣工の任務を負って、青山士が所長として就任することとなった。



※パナマ運河とは太平洋とカリブ海を南北につなぐ、全長約 80km、最小水路幅 192mの閘門(こうもん)式運河です。(外務省 HP より)

※大河津分水路は、越後平野を信濃川による水害から守るためにつくられた人工的な河川です。

(国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所 HP より)

荒川知水資料館 入館無料

[開館時間]9:30-17:00(5-6月) ※7月以降開館時間が変更になります。

[休館日]毎週月曜日(祝日は除く)、祝日の翌日、年末年始、お盆

〒115-0042 東京都北区志茂 5-41-1 Tel.03-3902-2271

http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/arage_index007.html

アクセス

南北線「赤羽岩淵駅」徒歩15分
JR「赤羽駅」徒歩20分
都営バス「志茂2丁目」徒歩10分
専用駐車場はありません
公共の交通機関をご利用ください

